

▶ 第7章

サプライチェーンの見直しと中国の新構想

——日本に必要な多面的努力

国際経済研究所 研究部 主席研究員

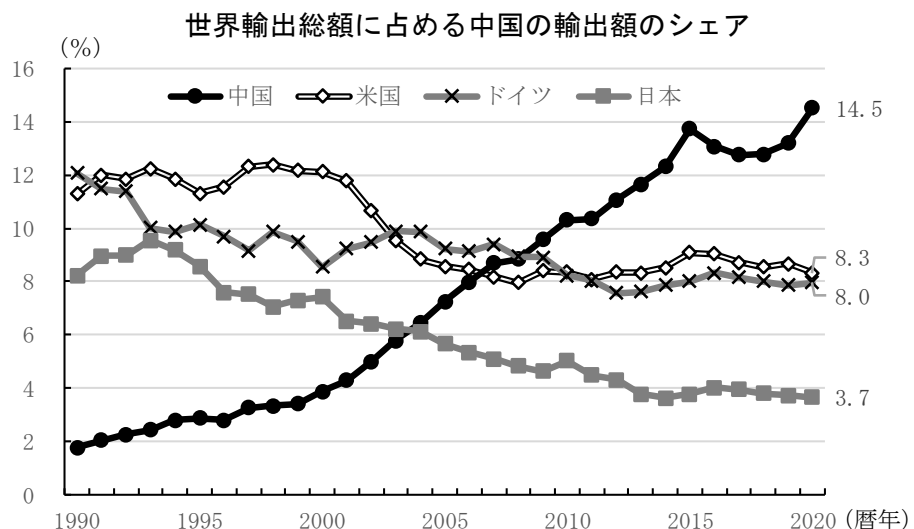
伊藤 信悟

【ポイント】

- ▶ 「米中貿易戦争」、新型コロナは、中国に依存したサプライチェーンのリスクを強く意識させる契機となった。しかし、日米欧企業の中国離れは現時点では限定的である。中国の厚い産業基盤、日米欧企業の中国内サプライチェーンが「地産地消型」であるためだ。ただし、「米中貿易戦争」の影響を被りやすい台湾系IT（情報技術）企業が新型コロナ収束後にどの程度分散計画を実行に移すか、注視を要す。
- ▶ 中国政府は「双循環」、すなわち内需拡大を軸としつつ対外開放も進めることで、外国企業を繋ぎ止めようとしている。また、半導体等、キーテクノロジー・製品の調達難緩和のために、挙国一致で「革新型国家」に転身しようとしている。
- ▶ 米中対立は続く可能性が高い。他国と共同での中国への国際ルール受容・履行の働きかけ強化、他の新興国支援、複数の巨大消費地でのサプライチェーン構築等、多面的な努力が強靱かつしなやかなサプライチェーンの形成には必要だ。



注目データ



注：2020年の数値は2020年1—9月の累計値

資料：WTO Data Portal を基に作成